

6.9 元氣指導法

6.9.1 数学を読む

みなさんは生徒たちにちゃんと本読みさせていますか？ 例えば、 $5 - 3$ という式を読ませて
いますか？ 自分は必ず大きな声で全員相手に読ませています。ここで大切なのは項で区切って
読むことです。小学生までは必ず $5 - 3$ と読んでいたのが $5 - 3$ となるのです。これはかなり
訓練が必要です。

同様にかっこのはずし方があります。 $2(x + 2y) = 2x + 4y$ という式も $2x + 4y$ と読
ませています。このように数学の教科書にはかなりの部分で読ませると言うことができていな
い部分があります。ようするに教師の側でこれくらいできるだろうと感じてしまう指導です。

式は必ず項で区切って読ませる。これは基本中の基本です。一日でできることではありません。
3年生の「式の計算」における $(a + b)(x + y) = ax + ay + bx + by$ においても
 $ax + ay + bx + by$ としっかり区切って読ませることが大切です。

6.9.2 アイテム

元氣ある授業にするために自分にとって欠かせないアイテムがあります。

みなさん、見たことありますか？ パーティグッズ
なのでおもちゃ屋さんで売っていると思います。
えっ？ 何に使うのかって？ これはですね。一問
一答形式の問いで使用します。例えば $a(x + y)$ や
 $(a + b)(x + y)$ の展開。簡単な正の数・負の数の計
算。問題を読みながら答えを生徒が言います。そ
の結果に対して使用するのです。もちろん正解な
らばピンポン。不正解ならばブップッ~を押して
いきます。テンポある授業で少しでも生徒がうる
たえると自分は迷わずブップッ~を押していきま
す。これだけは中学生であつたらわかって欲しい
という教材に対して使用するといいと思います。



6.9.3 教師の姿勢

元氣な授業を行うためには教師の姿勢が大切だと感じます。何が大切か...これは一言で言うと
「教師が楽しく数学の授業をしているか？」

だと思います。若い中学生の子供達は敏感です。大人の気持ちにすぐに共鳴を知らず知らずし
てしまいます。数学の授業を楽しく自分が行っていればそれを教わっている子供達も楽しく授
業を行います。学校の中の仕事で数学の授業が一番楽しければ教師が授業に遅れて行くなんてこ
ともなくなります。先生方の気持ち一つで元氣な授業ができるかどうかが決まってくるのです。